フィールド（現場）からの風 569

宮田守男

セイダカアワダチソウ 駆除は地域の重要課題だ

今日は「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨とする国民の祝日の文化の日だ。各地で文化祭が開催されているので、ぜひでかけてみてはどうだろうか。多くの人の文化への取り組みに感化され、これからの日常に変化を及ぼすに違いない。

10月下旬に行われた大北地区賛助会白馬・小谷グループが企画した環境省が要注意外来生物リストに載せているセイダカアワダチソウの駆除活動に参加した。コロナ禍の影響で3年間実施できなかったので村内各所で繁茂が目立つようになり活動を再開したが、繁茂箇所が多すぎたために主要道路から見える範囲での作業になってしまった。繁茂箇所は荒廃地が多く根こそぎ抜き取りを基本としたが、急こう配で他の植物の繁茂も多く作業は会員の高齢化も重なり困難を極めた。

自分たちが暮らす地域の景観を守ろうとしない地域の在り方が本当に良いのだろうか。

今年白馬村は国連世界観光機関から「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に制定されている。この機会に田園風景などの景観を継続する取り組みを、地域全体で積極的な行動で実施するよう望むばかりだ。まだ多くの箇所でセイダカアワダチソウが繁茂している現況があるので土地所有者や地域が駆除作業を行ってほしいと願うばかりだ。

農業の高齢化に伴い増加している耕作放棄地を美しい農村風景につくる取り組みとして野の花、野花、野生の草花と呼ばれているワイルドフラワーによる緑化が注目されている。すでに技術研究所では緑化において悩まされる雑草に対してワイルドフラワーに芝草を混播することで雑草の侵入繁茂を抑制する実証試験も行われている。

東京大学農学部造園学科の近藤三雄教授は以前から、「緑化」ではなく花と緑において空間を少しでも明るく快適に彩る「緑花」を実行していかなければならないと提唱している。放っておいても育つ野生の草花でつくる地域景観の創造こそが、これからの地域に求められる。伊藤忠商事会長を務めた故瀬島龍三さんが「大震災を生き抜く」で強調した、「悲観的に準備し楽観的に対処せよ」の言葉がある。検討します善処しますではなく、スピード感を常に意識した地域であり続けるべきではないだろうか。（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

山積したセイダカアワダチソウを前に
参加者は、これが限界と残念がる